

令和5年度学校評価 成果と課題、改善点・方策等

| 分 掌      | 目標番号 | 項 目  | 1年間の成果と課題、次年度への改善点・方策等  |
|----------|------|--|---|
| 総務部      | ④    | 防災意識の向上と身の回りの備品を大切にできるようにする                | 防災訓練は雨のため体育館に避難したが、予定時間内にできた。また、新校舎で場所を確認した上でシューターを使った避難も実施できた。机・椅子は概ね丁寧で使用できているが、経年劣化もあり不備なものについては年度末の点検で交換・整備する予定である。トイレに清掃しやすい用具を準備したことで、丁寧に清掃活動に取り組んでいる。次年度も、防災計画に従って避難訓練を実施し、机や清掃用具などの備品を大切にすることをとおして、規律ある学校生活を送れるように指導を続けていきたい。   |
| 教務部      | ①④   | 基礎学力の向上と学習習慣の定着<br>授業に取り組む姿勢の確立            | 2学期末考査および学年末考査前に自習室の開放を実施した成果が1・2学期に欠点を持っていた生徒も欠点を解消した者が多数いた。<br>・朝の時間帯は、遅刻生徒も多く、10分間勉強が落ち着いてできていないときもある。引き続き担任や副担任が協力し、落ち着いて学習に取り組む習慣を身につけさせたい。<br>・各教科で、ICTを活用した研究授業を実施しているところである。Teamsの活用も一時期よりは進んでいるところではあるが、リモート授業に対応できるほどは充実していない。  |
| 人権・同和教育部 | ⑤⑦   | 生徒・保護者の人権意識向上<br>地域との交流                    | 人権・同和教育LHRにおける学びが生徒の心に残るものとなるように内容を検討し、ワークシートや資料の一部刷新を行い、パワーポイントを使用しながらすすめた。<br>人権通信(教職員版)(生徒版)(保護者版)の発行やPTA新聞への投稿うした。文化祭の人権展では、講演講師の写真展示や外部講師による補助犬ワークショップを開催するなど、広く啓発を行った。上高野文化センターや上高野児童館における文化祭への参加や園芸交流活動を行うなど、地域の方々と触れ合うことで人間的なつながりを深めるとともに、社会とのつながりの中で自尊感情の醸成に繋げていくことができた。次年度も、生徒一人ひとりが自他のかけがえのない価値を認識しながら協働し、様々な分野に積極的に挑戦し、自分の可能性を高めることができるように、同和教育を柱とした人権感覚をより高める人権・同和教育を推進していきたい。 |
| 特別活動部    | ③⑦   | 部活動の活性化<br>地域社会へ貢献                         | ・部活動の入部率を上げたいと努力はしているが、依然として低いままであった。4月の年度初めに部活動をする雰囲気を作り、総体を目指す。その勢いで2学期、3学期と少しでも継続できるように、部活日などで活性化したい。<br>・入部している生徒が良い環境で活動でき、かつ充実した高校生活が送れるように担当教員は支援をしていきたい。<br>・今年度はコロナが5類となり、少しは以前のような行事ができた。笠高祭や笠高ボランティアなども実施できた。来年度は地域に貢献できる機会を減らさずに、生徒も地域の皆様も気持ちの良い付き合いができるように、コロナ前に完全に戻したい。そして地域に根ざした学校づくりを目指して行きたい。  |
| 生徒指導部    | ④⑤⑥  | 遅刻の減少<br>携帯電話のマナーを守らせる<br>基本的な生活習慣を身につけさせる | 遅刻に関しては、1年を通じて増加傾向にある。学校に時間通りに登校し、活動する意識をうえつけられるように指導していきたい。携帯電話のマナーについてはあまり問題意識が感じられない。粘り強く指導して、マナーを守るよう徹底していくしかないと思われる。また、積極的な挨拶に関しては、自分からしてくる生徒はまだまだ少数である。挨拶をすることを苦手にしていく生徒も若干見られるが、卒業後の就職・進学も見据えて、自ら積極的に挨拶ができるよう習慣づけていきたい。  |
| 教育相談部    | ②    | 自己理解のための支援<br>課題解決のための援助                   | スクールカウンセラーによるLHR(1年生・3年生)、9月に全学年対象の教育相談LHR(認知とリフレーミング)を実施し、自己理解や自分自身の考えを変えることでよりよい選択ができることなどを学ぶことができた。また、1・2年生はi-chechを実施し、自己理解につながるよう支援した。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーには生徒・保護者と面談等を通じて学校生活や課題解決に前向きに取り組めるように支援をいただき、人間関係が改善されるなど生徒の課題解決につながった。特に支援が必要な場合には、担任や関係職員とのケース会にも参加いただき、助言をいただいた。継続的に支援を必要としている生徒もおり、次年度も引き続き支援を継続していきたい。   |
| 進路指導部    | ②    | 進路意識の向上(1,2年)と<br>進路実現(3年)への支援             | 進路関係の諸行事については、概ね年度当初の指導計画通りに実施することができた。1・2年を対象とした進路ミュージカルやガイダンス等も予定通り実施でき、低学年より進路について学ぶ機会も確保できた。今年度の3年生は、就職希望が約6割と多く、ホテル関係など希望職種も多岐にわたっていた。進学は、農業や調理栄養関係など、専門性を生かせる学校への進学が多かった。自己の適性や関心をふまえた進路選択ができるよう、低学年からの指導が重要である。学年団や科と連携して進路行事後に高まった意識をうまくつなげていき、生徒が主体的に自己の進路を選択・決定できる能力や職業観を低学年から育成していきたい。   |
| 保健部      | ②    | 積極的な健康作りの推進・安全意識の高揚を図る                     | 体調不良を訴え保健室を来室する生徒に対し、生活リズムを振り返り基本的な生活習慣を整えるよう意識づけを行ったが、まだ課題は多く、取り組みを継続していきたい。健康診断前に目的や説明を保健委員が行い関心を持てるよう取り組んだが、精密検査や受診が必要な生徒の中にはまだ受診していない者もいるため、指導を継続していきたい。心の健康や性に関する指導は教育相談と連携し、実施することができた。新型コロナウイルス感染及びインフルエンザ対策として、生徒保健委員が昼食時定期的に注意喚起を行っている。新たな取り組みとして、生徒たちが安心して学校生活を送れるよう、保健委員と校内の危険箇所を調べ、それらをもとに「笠田高校安全マップ」を作成し、教室やトイレに掲示した。  |
| 農場部      | ⑦    | 農業のスペシャリストとして、地域社会に貢献できる生徒の育成              | 各部門で1年生へは基本的な知識・技術を定着させた。2年生へはより専門性の高い内容に取りませた。3年生では専攻生として必要な知識・技術とともに、1、2年生への指導ができるような態度を身につけさせる指導を行った。<br>地域社会に対しては、近隣の幼稚園や養護学校との農場での交流や、新鮮市でのデイクアセンターとの販売を通して農福連携に取り組むなど、農場全体で取り組むことができた。また、11月には西讚農業改良普及センターの協力のもと行う地域と連携した農業実習では、農業科2年生全員が地元先進農家へ実習に行き、農業について理解を深めた。   |
| 家庭部      | ②    | 主体的に学び、専門性を高めるための努力ができる生徒の育成               | 実習の取り組みについては、学年が上がるほど熱心に取り組んでいる。家庭科技術検定についてもほとんどの生徒が意欲的に取り組み、3年生で三冠王が1名、技術特級が5名おり、最後まであきらめずに努力した結果だと考える。その他、保育検定やビジネス実務検定など、資格取得に積極的に取り組んだ。しかし専門のコースの検定で合格できず苦慮している生徒も増えているので、生徒のやる気を高め、きめ細かい指導を根気強くしていきたい。コンクールの応募については、受賞はなかったが複数応募することができた。家庭科の備品の扱いについても、十分できていない生徒もいるので、合わせて今後も指導を続けていきたい。   |
| 1年団      | ④⑤⑥  | 高校生としての自覚を持たせ、<br>周りのことを考えた生活を送らせる         | 服装や授業態度などの指導を繰り返して行ってきた。なかなか指導に従わない生徒がいる中、きちんと学校生活を送っている生徒も見受けられる。目標を見失っていて毎日の生活に張り合いがないため怠惰な行動をする生徒がいる。引き続き学習指導や進路指導にも力をいれて生徒が充実した毎日を過ごせられるように指導していきたい。  |
| 2年団      | ②④⑥  | マナーや時間など規律を守らせる                            | マナーや時間など規律を守らせるための指導をおこなっていたが、常習的に遅刻が多い生徒や規律を守れない生徒はなかなか指導にのってくれなかった。高校生活にやる気のない生徒がおり、保護者からもやる気のない者はどうしようもない本人次第という意見もある。引き続き、生徒がきちんとした高校生活に前向きに取り組めるようにさまざまな角度から支援や指導が必要と感じている。  |
| 3年団      | ②④⑥  | 進路実現に向けて、自ら努力を<br>するとともに社会性を養う             | 卒業に向けて、学年団職員が協力して指導にあたった。進路未定者は若干名いるが、ほとんどの者が自分の進路を決定することができた。就職後、離職することがないよう、礼儀やマナーを身に付け社会に貢献できる人材になることを願っている。   |